
すべらない小説 02 （友達の家で・・・）

ミジンコ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

すべらない小説 02 （友達の家で・・・）

【Nコード】

N3188F

【作者名】

ミジンコ

【あらすじ】

一気に読めるすべらない小説。経験と実績が産んだ奇跡のエピソード！！1分で読みきれぬ疾走間と読みやすさが魅力！！

高校の夏休み、遠い場所に住む友達の家遊びに行った。家にと
ると、友達のお母さんが出てきて笑顔で俺に向かって言うてきた・
・・・・

「あゝらあゝ久しぶりねえゝ!! 雅夫まゆおなら上にいるから、かつてに
上がったっていいわよお!!」

そう言われて断る理由も無く、階段を上りその友達が居る部屋のド
アの前まで進んで行った。久しぶりに会う友達なので、微妙な気ま
ずさがうまれてしまう可能性もある。それが嫌な俺は、そんな雰
囲気を壊すように勢いよくドアを開け、元気に挨拶をした。

「よおゝ!!!! ひっさしぶりゝ!!!! げゝんきだったかなあゝ!!
!!」

すると、久しぶりに会う友達が口元に指一本を合わせながら自分
に近づいてきた・・・・

「しいゝ!!!! しいゝ!! 静かに!! 静かにして・・・」

なぜかしきりに静かにするように自分に訴える。

（えっ!???. いったいどうしたのだろう??? いったい
何が起こったのだろうか!?)

不思議に思った自分は、そおゝとその友達に近づき小声でゆっくり
その質問をして見た。

「いったいどーしたの？なにがあつたの？・・・」

その質問を聞き、すぐにその友達が自分に顔を近づけて更に小さい
小声で答えを返してくれた。

「いまぁ・・・・・・・・・・CDを・・・・・・・・MDに録音しているところだ
からぁ・・・・・・・・・・」

・・・・・・・・・・つて

声入んねえゝからさぁぁぁ！！！！

いやっ「しいゝ」つて絶対声なんか入んねえゝからぁぁぁ！！！！
何時代の人間なのよぉぉぁぁ！あんたはぁぁぁ！！

と思つたがそうとも言えず、気まずい静かな部屋でその曲が終わる
のを待ち続けるしかできなかった。

「そこ！！そこ！！・・・その床、ギィゝつて鳴るから踏まな
いで絶対！！」

いやだから音は入んないつて！！！！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3188f/>

すべらない小説 02 （友達の家で・・・）

2010年10月20日13時20分発行